

広陵中だより



学校の教育目標
～ひびき合い 高め合う生徒～

可児市立広陵中学校
第13号 令和8年3月19日

「人権と命を大切にする学校」「明日も来たくなる学校」「笑顔溢れる学校」

校長 桂川 辰也

「安心感」はこれからも

3月6日、95名の卒業生が広陵中学校を巣立っていきました。今年の卒業生は、他人に「安心感」を与える術をよく心得ていました。中でも私が一番教えられたことは、「安心感」を与えるには、特別な言葉や改まった活動がなくても、日常生活の些細な気遣いの積み重ねで十分だということでした。私は朝、掃除をしながら生徒の登校を見守ることを日課としていますが、作業に夢中になり、登校してくる生徒に気付かないことがよくあります。そんな時、大きな声であいさつをして私を驚かせてくれた生徒が何人もいました。驚かされて喜ぶのも少し変かもしれませんが、私はその瞬間が大好きでした。自分の居場所がここにあるという「安心感」に包まれるからです。舞台での立派な言葉と日常の姿が一致していることの大切さも、卒業生から学びました。言葉で終わらない日々の積み重ねこそが信頼につながり、人に「安心感」を与えるということです。今年の卒業生は、そういう意味でも広陵中学校に大きく貢献してくれました。

さて、そんな3年生は卒業しましたが、次年度も「安心感」は確かに受け継がれていきそうです。先日の入学説明会で披露した2年生の学校紹介や学年合唱は、本当に素晴らしいものでした。6年生の学校生活の様子が、説明会翌日から良い方向に大きく変わったそうです。「2年生のプレゼン発表と合唱のお陰です」と、帷子小学校の校長先生から



丁寧なお礼の言葉もいただきました。当日は、私も6年生や保護者の皆さんに「安心感」や「ワクワク感」を届けたいという思いで校長挨拶に臨みましたが、2年生の皆さんに完敗しました。「広陵中学校では一生懸命やるのがカッコいいんだ」「安心してやってみたいことに挑戦できそうだ」2年生の頑張りが、6年生にも、保護者の皆さんにも、大きな「安心感」を届けてくれたと私は感じています。この2年生が最上級生となれば、下級生はきっと安心して後に続いてくれることでしょう。

そこで、令和8年度の広陵中学校の合言葉を次のようにしたいと思います。

笑顔のもと＝「安心感」 ～安心できるから挑戦できる、挑戦するから成長できる～

これからも、子どもたち一人一人が「安心感」・自分の居場所を感じられる学校であり続けます。

最後になりましたが、保護者や地域・関係機関の皆様、一年間温かいご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。